



終活相談しやすい 環境の整備を

宮川 大樹（みらい）



Q 終活に関する様々な悩みについて、市民が分かりやすく相談できるよう、ワンストップ総合相談窓口を導入すべきではないか。

A 市では地域包括支援センターで相談を受けているが、より多くの市民に知ってもらえるよう、窓口としての認知度を高める取組を行うことにしている。広報上越や市ホームページによる周知を継続するとともに、75歳以上を対象とした「健康とくらしの調査」の結果を活用し、早期把握や個別訪問に努めるほか、普及が十分とは言えないエンディングノートについては、令和9年度に市独自で作成し、普及を推進する。

Q 墓じまいの相談が増える中、手順や注意点をまとめたガイドブックを作成してはどうか。

また、墓じまいにおける公的な受け皿となるよう、大潟、柿崎、中郷、釜塚の市営霊園に樹木葬や合葬墓を設けるべきではないか。

A 墓じまいなどの改葬件数は増加傾向にあり、当市でも相談が寄せられている。窓口での丁寧な説明に加え、市ホームページで改葬の手続きや流れを掲載中であり、今後も改善を図っていく。現時点でガイドブックの作成や市営霊園の樹木葬・合葬墓の設置は検討していないが、終活相談とあわせて、今後も市民が不安なく進められるよう丁寧に対応していく。



歴史的風致を活かした まちづくりに向けて

高橋 浩輔（みらい）



Q 国土交通省、文部科学省、農林水産省の三省が共管する「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」において、歴史的風致は「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義されている。城下町高田の歴史的風致をどのように評価しているか。

A 高田は、日本一の長さを誇る雁木や寺町など、城下町としての町割りや文化が時代の変遷を経てもその姿を大きく変えることなく、多くの文化財が地域の中で大切に継承され、歴史・文化を活かした市民活動が息づいている。城下町高田の歴史的風致は大変貴重であり評価されるべき地域であると認識している。

Q 同法に基づき、自治体が「歴史的風致維持向上計画」を策定し国の認定を受けると、財政的支援を始めとする歴史まちづくりへの様々な支援を受けることができる。本年の法改正により、県指定文化財である高田城址も計画策定の核とすることが可能となった。計画の認定に向け、調査・検討を進めるべきと考えるがどうか。

A 歴史的風致の活用によるまちづくりの意義は理解するが、計画策定については慎重に見極めていかなければならない。



新野球場の建設と100km マラソン継続を

こんどう 彰治（市民クラブ）



Q 野球協会からの新野球場建設要望に対し、「他のスポーツ団体からの要望を含めて検討していく」としたが、取り扱いはどうなるのか。

A 令和8年8月末を目途に、施設整備の優先度判断基準をまとめたい。

Q えちご・くびき野100kmマラソンを継続する考えはないか。

A 終了を決定した実行委員会の判断を尊重し、一区切りとしたい。

Q 他自治体では一時中止とした大会が再開した事例がある。本大会も再開する考えはないか。

A 民間の中でボランティア、あるいはやってみたいとの声があれば、市でもサポートできる。

市長公約のトイレ整備の状況は

Q 令和7年12月定例会で優先順位を定めてトイレ整備を進めるとしたが、現状はどうか。

A 現時点では年次計画を示す段階にないが、第3次財政計画との整合を図りながら着実に整備を進める。

若年女性の転出に係る人口減少対策は

Q 若年女性の転出割合が高いが、対応策はどうか。

A 複合的な要因が絡み合っているが、今後もある選ばれるまちづくりを総合的に進めていく。